

第39回

発表：田林 洋一 准教授

高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター
専門：スペイン語学、言語学、スペイン語圏地域研究

『ドン・キホーテ』の狂気を読む

Brief considerations about the sanity of “Don Quijote”

- 2月1日（水）12:10－12:50
（40分間：発表25分、質疑応答15分）
- 東北大学川内北キャンパス
川北合同研究棟 101ラウンジ

正午PD (Professional Development) 会

- 『機知に富んだ郷土ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』はスペインの小説家ミゲル・デ・セルバンテスによって1605年に前篇、1615年に後篇が発表された小説である。『ドン・キホーテ』は、ラ・マンチャ地方に住む郷土が騎士道物語を読みすぎて正気を失い、自分を遍歴の騎士と思い込んで、従者サンチョ・パンサを連れて旅に出る物語である。「聖書の次に読まれる」と称されるほどの古典的傑作であるのに、日本では「ドン・キホーテ」という名前だけが独り歩きしてしまい、実際に小説そのものが読まれることは少ない。本発表では『ドン・キホーテ』の簡単な紹介をするとともに、『ドン・キホーテ』の根幹をなす「狂気」について考察することを目的とする。

高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education

問い合わせ先：
学際融合教育推進センター 山内 保典
E-mail: yamanouchi@tohoku.ac.jp